



十勝川治水100年
トークリレー ④

十勝平野の真ん中を走っている、母なる大河十勝川。私たちの先人は、この100年、十勝川と戦いながら守ってきました。

この十勝川から私たちは、恵みを与えられ、安らぎを与えてもらいました。しかしながら、この十勝川も機嫌を悪くすると人々に試練（災害）を与えました。古くは、1922年に起きた台風による豪雨。千代田下流から大津まで一面冠水、死者が9人出ました。

私たち建設業の役割の一番は、地域の安全安心を守り、利便性を提供することにあります。当時から発注官庁と建設業者が一丸となって復旧、復興に努めてきました。大

十勝川治水100年記念事業

トークリレー



帯広建設業協会 会長
萩原 一利 氏



十勝毎日新聞
令和5年2月21日 3面 掲載

帯広建設業協会長 萩原一利氏



く蛇行していた十勝川も、改良に改良を重ね、スムーズな川の流れとなりました。2003年の十勝沖地震で、十勝川は下流堤防に大きく亀裂が入り、また16年には、大きな台風が北海道に上陸し、この十勝に大きな爪痕を残し、陸の孤島に近い状態となりました。その時も私たち建設業が、市内、木野の町は水害に遭わず助かりました。まさに防災

復旧復興災害のたび全力

減災のためのインフラ整備であつたと思います。

いま、日本全国で異常気象による災害が起き、強靱（きょうじん）化が言われています。この十勝も強靱化のためのインフラ整備を早く進め、安全安心な十勝をつくつていかなければなりません。

そして、この母なる十勝川は、住民にとって憩いを与えて楽しむ場所であり、十勝に潤いを与え続けるよう、これからも守つていかなければなりません。その気持ち、行いを私たちの子孫も引き継いでいくことを期待しています。

◆ 十勝川の治水事業は今年、100周年の節目を迎えた。治水事業とかかわりのある関係者の思いや将来に向けたメッセージを紹介する。

（随時掲載）

